

## 第一生命経済研究所のホームページご紹介

アドレス：<http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/top.cgi>（「第一生命経済研究所」で検索可能）  
11月上旬までに上記ホームページに登場したレポートテーマの一例をご紹介します。このほか数多くの詳細な経済分析レポートが掲載されていますので、経済研レポートと合わせてご活用ください。

～製造業から非製造業へ、さらにサービス業への移動する雇用について分析しています。

2008/10/10 「サービス業への雇用のシフトとその影響」

掲載カテゴリ：日本経済分析チームによる「日本経済の羅針盤」

～毎週、市場に起きる新しい動きについてコメントしています。

2008/11/10 「Market Watching Weekly Market Report」（毎週月曜日配信）

掲載カテゴリ：畠峰義清の「マーケットウォッチング」

～急激な円高に対応してどのような経済対策が考えられるのかを提言しています。

2008/10/27 「政府が円高対応に併せてできること」

掲載カテゴリ：熊野英生の「金融市場の謎を解く」

～世界金融危機と米国経済の状況、アジア、新興地域の経済情勢を分析します。

2008/10/22 「米国 金融危機の行方⑤ -2009 年前半にかけてマイナス成長が続く公算-」

2008/10/21 「中国経済：7-9月GDPの概要」

2008/10/21 「インド経済事情：金融政策委員会直前に大幅利下げ決行」

2008/10/30 「中国経済：中国人民銀行が2ヶ月で3回目の利下げ」

掲載カテゴリ：桂畑誠治の「米国経済を探る」、「アジア・新興諸国経済」

### 編集後記

今月の経済研レポートに日本経済長期予測が掲載されている。昨年度のシナリオはグローバル化の恩恵をテーマとしていたが、今年はその影の部分から広がった影響も含めて分析している。ここ数年の日本経済は、低インフレで好景気を謳歌していた欧米諸国や、成長著しい新興諸国からの外需主導で成長してきた。だがその後は一転して、これら地域の需要急増で押し上げられた猛烈な資源価格高騰の恐怖にさらされた。さらに今回の予測の作成中には、金融市場の混乱が米国から世界中に波及し、経済危機に発展した。分析では、こうした現在進行形の環境変化も極力織り込んでいる。

ところでここ数年、日本と海外の経済動向を見比べると、どうしても歩みの遅い日本経済が歯がゆく見えた。金融危機で世界経済が逆回転を始め、あらためて国内の動きを眺めてみると、自分たちの経済を何とかしなければならぬ、という空気が少しずつではあるが流れ始めたように思う。経済危機の波及が深刻になったために景気への関心が高まるのは当然だが、一方で逆風の中で金融機関の海外出資や買収、製造業、流通業での海外展開が積極化している。本年の日本企業による海外M&Aの金額は記録的な額に達している。こんなことから、一時は欧米の周回遅れともみられたわが国の経済や企業は、今ほんの少し存在感を増したように見える。現在の動きが来年も続き、やがて訪れる景気回復局面で、国内経済もバランス良く恩恵を受けられるような仕組み作りにつながることを期待したい。

(H. U)